

## 朝の礼拝

聖書 ローマの信徒への手紙 12章9-15節 (新約聖書292頁)

9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、10 兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。11 怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。12 希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。13 聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。14 あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。15 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

## 互いに愛し

ゴールデン・ウィークの時でした。所用があり東京へ行きました。途中、時間があったので、パンダのシャンシャンを見たくなり上野動物園に行きました。90分待ちましたが、残念ながら木の上で丸くなってぐっすり寝ていました。そんな私を励ましてくれたのが“ゴリラ”でした。お尻を向けているゴリラ、目の前に迫ると顔のゴリラ、必死におかあさんにしがみつく赤ちゃんゴリラ、いつの間にか夢中になってしまいました。

人間とチンパンジーの遺伝子情報であるDNAは98.2%同じだと読んだことがあります。瞬間的な記憶力はチンパンジーの方が人間より高いという京都大学の研究データもあります。そして研究者の松沢哲郎さんは1.8%の違いは人間の心の進化の結果だと言っています。著書『分かち合う心の進化』では最後に次のようにあります。

「いま、ここ、わたし」という世界に生きているのがチンパンジーだとしましょう。それに対して人間は、今だけでなく、過去や未来に生きています。ここだけでなく、あなた・あの人・そして名前を知らない人々やさらには草木虫魚にまで心を寄せるでしょう。「想像するちから」、それこそが人間のもつユニークな心のはたらきだと思います。「想像するちから」があるからこそ、人間は希望をもち、互いに思いやり、そして心に愛が生まれます。(略)想像するちからは何のためにあるか。それは人間が互いに分かちあい、思いやり、慈しむ、そのためにある、と考えています。

人間が進化してきた過程には、抗うことのできない自然の脅威、人間同士の悲惨な土地の争い、そして現代でも内戦、テロ、富を奪い合う経済戦争が続いています。一方で、人間はそうした困難な状況で自らを犠牲にして家族や仲間を守ってきました。そうして人間は互いをおもいやり、慈しみ、分かちあう心が与えられてきたのです。だから私たちは自然災害の悲しい体験や人間の過ちの歴史を通して、幼い子ども、家を失い、国を追われさまよう人を想像するちからが与えられ、祈り、互いに愛し合う心へと進化してきたことも覚えておきたいと思います。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。あなたは私たちに「互いに愛し合いなさい」「隣人を自分のように愛しなさい」と言われました。どうか今日一日もあなたを信じ、互いに思いやり、励まし合い歩ませて下さい。また、今、様々な理由で就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうかその艱難を耐え、あなたの慈しみを悟り、共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与えて下さい。主イエス・キリストによってお願い致します。 アーメン